

POWER!

2024年
10月
vol. 91

令和6年(2024年)
10月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 4月、7月、10月、1月

<https://www.yakuren.jp>

令和6年度臨時評議員会及び 本田あきこを激励する会 開催



令和6年9月25日、AP東京八重洲において「令和6年度臨時評議員会」が開催された。司会の今井常任総務の開会の辞に続いて、岩月会長が挨拶し、第57回日薬学術大会(9月22～23日・埼玉)の開催御礼と、本田あきこ参議院議員の支援者名簿の収集の状況と更なる協力が呼びかけられた。続いて、本田あきこ参議院議員のご挨拶では、第57回日薬学術大会が盛会のうちにおわったこと、岩月会長の会長就任挨拶にあった「365歩のマーチ」のように自らも1歩前に入る姿勢を強調し、さらに、大学での講演依頼が増えていることなど、今後の活動への意欲が示された。神谷政幸参議院議員のご挨拶では、女性の政治参画と薬剤師議員の必要性について語られた。欠席された逢坂誠二衆議院議員のご挨拶は、秘書により代読された。

会議では、仮議長に栃木県の梅野評議員が指名され、出席者数が評議員総数3分の2以上であることが確認され、会議成立が宣言された。次に、議長・副議長の選出が行われ、挙手多数により、岩手県の畑澤評議員が議長に、香川県の久間評議員が副議長に承認・選出された。その後、議長・副議長の進行のもと、執行部による重要事項の経過報告および議案の説明が行われ、質疑応答の後、全議案が挙手多数により可決された。

臨時評議員会終了後には、本田あきこ中央後援会主催の「本田あきこを激励する会」が同会場で開催された。岩月会長の挨拶の後、来賓の神谷政幸参議院議員、藤井基之前参議院議員、とかしきなおみ前衆議院議員、岡田安史製薬産業政治連盟会長からご挨拶を頂戴し、松本純前衆議院議員と鹿目広行日本薬業政治連盟会長からの祝電が披露された。続いて、武田泰生日本病院薬剤師連盟会長、渡邊美知子日本女性薬剤師連盟会長代理(幹事長)より激励の言葉を頂いた後、本田あきこ参議院議員の力強い決意表明が行われた。最後に、川田副会長の閉会の挨拶に続き、本田あきこ中央後援会「セブンシスターズ」の橋本・小屋敷両常任幹事の発声による勝つぞコールが行われ、盛会裏に終了した。



自由民主党公認候補者に決定!

本田あきこ参議院議員 次期参議院議員通常選挙

(令和7年7月予定)

令和6年7月25日、自由民主党選挙対策本部は、第27回参議院議員通常選挙における第一次公認候補者として45名を決定した。そのうち比例代表は現職11名、新人6名の計17名である。日本薬剤師連盟の組織内統一候補である本田あきこ参議院議員は、5月30日に自由民主党選挙対策本部によるヒアリングを受け、6月19日に経歴書、支援団体一覧などの関係書類とともに公認申請書を提出し、比例代表の第一次公認の指名を受けた。

「す」を政治信条として活動をしている。また、厚生労働大臣政務官兼内閣府大臣政務官、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官を歴任し、女性議員としての役割も大きく、自由民主党女性局長代理を務めたこともあった。この他にも数多くの委員会に所属してその役割を果たしており、本田あきこ参議院議員には次の6年間も継続して活躍をしていただきたい。日本薬剤師連盟は、全国の薬局や病院の薬剤師、スタッフをはじめとして、周辺の関係者のみに留まらず、つながりをより広げていただき本田あきこ参議院議員の支援をお願いしたい。日本薬剤師連盟の支援活動は、既に始まっている全国支部訪問をはじめとして、薬局、病院、卸会社等の皆さんが本田あきこ参議院議員の支援の中心になっていただくため、全国の支部を通じてさらなる支援活動を展開していく予定である。日本薬剤師連盟の活動に協力をお願いしたい。

風力計



日本薬剤師連盟 副幹事長 中原 靖明

「本田あきこ」を書く
毎年のように更新される「今年の夏が一番暑い」も終わり秋の季節になりました。
ところで皆さんの薬局に「本田あきこ」のポスターを掲示していますか？
日薬連盟の役員が全国の薬局を訪問させて頂くと本田議員を知らない又は忘れた薬剤師や事務職員の方が多数おられるとの報告があることに驚きました。日薬連盟役員は毎日のように名前や写真などに接するため皆さんも知っていると勘違いしがちですが、現実はかなり違うようです。
また初めから丁寧に名前を覚えて頂くところから始めなければならぬかも知れません。
最終目標は違いますが、言語は「読む」「聞く」「話す」「書く」の四つ技能から成り立っており、どの技能を目標するのか明確にしなければなりません。私たちの最終目標とする技能は「本田あきこ」を書くことです。
最初から氏名(単語)を覚える必要はないので、とにかくその氏名とその意味(写真)を一目でいいから見る。氏名単語は、一回あたり大体3～5秒くらいで10回見るとほぼ完璧に覚えられます。そこで活躍するのが「本田あきこ」ポスターです。
貼っていない施設はまずポスターを貼り、一回5秒10回見れば覚えられるか名前を覚えていない職員の方では是非試してみてください。

The 57th JPA Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Science in Saitama

第57回日本薬剤師会学術大会 日本薬剤師連盟ブース出展

令和6年9月22日(日)・9月23日(月・祝)、第57回日本薬剤師会学術大会が、埼玉県にて開催された。日本薬剤師連盟はさいたまスーパーアリーナにブースを出展し、チラシやパンフレットの配布などを行った。2日間にわたり本田あきこ参議院議員、神谷まさゆき参議院議員がそれぞれブースに立ち、参加者と交流をかわした。



第57回日本薬剤師会学術大会
日本薬剤師連盟ブース出展
神谷まさゆき
参議院議員と一緒に

第57回日本薬剤師会学術大会
日本薬剤師連盟ブース出展
本田あきこ
参議院議員と一緒に

セブンスターズ ～女性視点の連盟活動～

こんにちは、『セブンスターズ』です。昨年の7月に、川田幹事長の声掛けで誕生した本田あきこ先生の広報部隊です。7人の女性から構成されているので、このような名前になりました。女性が女性のために考える活動っていいと思いませんか？これまでの打合せでは、もっと、本田あきこ先生の人となりわかってもらうものは何がいい、議員会館の様子をみてもらいたい、本田あきこ先生とメンバーとの座談会をすることで、魅力を引き出したい、ぬいぐるみと一緒に写真をとってSNSにアップするとフォロワーが増えるかも…などいろいろな意見ができました。薬連タイムズ^(注1)やJPLフォーラム^(注2)にも登場しています。セブンスターズと言えば、「本田あきこ」と言われるように、これからも頑張ります。女性のみなさん、一緒に本田あきこ先生の応援をお願いします(もちろん男性も…)。



※これまでの活動紹介…薬連タイムズへの出演「本田あきこ議員の議員会館事務所訪問シリーズ」「女性薬剤師座談会 in 和歌山での本田あきこ先生との座談会特集」JPL座談会『女性のコミュカで本田あきこ先生の魅力を深掘りする!』登壇、「本田あきこ先生インタビュー in 埼玉」など。

- メンバー: 橋本昌子担当役員(石川)、小屋敷淳子担当役員(山口)、田城涼子担当役員(福岡)、大澤祐貴子(北海道)、清水圭子(岡山)、平山明子(神奈川)、吉岡加織(東京)

注1: YouTubeチャンネル 注2: Japan Pharmacist Ladies フォーラム

「本田あきこ」全国支部訪問活動報告

日薬連盟の役員による全国支部訪問が終了した。この訪問は、本田あきこ先生の名前を広く周知し、支援の拡大を図るために工夫を凝らしたものである。各支部は独自のアイデアと戦術を駆使して、本田あきこ先生の名前と活動を多くの人々に知らせよう努力した。訪問件数は薬局3,399件、卸を含む事業所245件、集会開催数は149回だった。今後は、都道府県の役員が中心となり、来年の6月までに全国の全薬局を対象とした支部訪問を実施することが決定している。この訪問は、支部ごとの取り組みをさらに強化し、本田あきこ先生への支援を一層広めるための重要なステップとなる。都道府県の役員は、各薬局とのコミュニケーションを深め、本田あきこ先生の活動内容や理念を詳細に伝えることを目指している。これにより、地域ごとの支援体制を強化し、本田あきこ先生の支援活動が全国的に広がるのが期待される。支部訪問を通じて得られる取組事例のフィードバックも、今後の活動において貴重な参考となるであろう。



オレンジ日記

参議院議員・薬剤師 本田顕子



彩りと希望あふれる薬剤師の未来のために ～学術大会 in さいたま～

9月22、23日の両日、第57回日本薬剤師会学術大会が埼玉県さいたま市で開催され、開会式ではイタリア出張中の盛山正仁文部科学大臣に代わり文部科学省を代表して挨拶をいたしました。

昨年10月からの約1年間にわたる文部科学大臣政務官としての公務についてはこれまでブログ等でお伝えしてきましたが、今回の大臣祝辞(代読)では、ウェブ参加の先生方を含め大勢の薬剤師の先生方に、薬剤師と関わりが深い来年度予算要求のことや薬剤師の偏在解消につなげるための養成プログラムなどに加え、今年度からの薬学教育モデル・コア・カリキュラムは「薬剤師の未来を彩る」今回の学術大会のテーマに通じるものであることをお伝えすることができました。

大会期間中、多くの時間を展示会場で過ごしました。今回の学術大会でお披露目された日本薬剤師会の公式キャラクター“ふあるみん”ともコラボしながら、薬連ブースを訪ねてきていただいた都道府県薬剤師会の先生方は元より、出展企業・団体の方々やポスター発表されている若手薬剤師の皆さんとも交流できました。また、学術大会に合わせて開催されました14大学の同窓会会場にも回らせていただき、彩り豊かな出会いの時間をいただきました。皆様ありがとうございました。



薬剤師の医療における礎を築かれた石井道子先生の生誕の地で開催されました学術大会での多くの方との触れあいをしっかりと継承し、そして新たな出会いを「未来」に生かし、薬剤師の「彩りと希望あふれる未来」へとつなげてまいります。



政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷政幸



長崎県五島列島(ドローンを利用した医薬品配送)

令和6年8月8日と9日の両日、長崎県五島列島を訪問し、離島での医薬品供給体制と病院薬剤師の派遣事業を視察しました。今回は五島列島で実施されているドローンを利用した医薬品配送についてご紹介します。長崎県薬剤師会の井手副会長、日本病院薬剤師会の武田会長、長崎県病院薬剤師会会長で長崎大学病院の大山薬剤部長と一緒に訪問させていただきました。

豊田通商株式会社は、グループ会社「そらいいな株式会社」を五島市に設立し、令和4年5月からジップライン社製のドローンを使用した医療用医薬品の配送事業を開始しました。このドローンは各目的地別に1日2～4便体制で運用されており、発注から2時間以内の配送が可能です。現在、医薬品の配送コストは医薬品卸、及びそらいいな社の協力によって賄われており、拠点設立時には助成金も活用されました。特に長崎大学病院等、島外の医療機関を受診した患者さんの処方薬が地元にはない場合でも、ドローン配送によって医薬品の安定供給が確保されています。福江島のドローン基地での発着試験飛行を視察した後、意見交換の場を設けていただきました。

翌日、中通島でうおのめ薬局を運営される五島薬剤師会会長の濱崎和久先生からお話を伺った後、有川港で医薬品を入れたパラシュート付きの箱の投下による配送現場を視察しました。ドローンの積載量は約1キロで、これまでに配送された医薬品の品質に問題はなく、配送は大きな助けとなっています。

今年6月に開催された国家戦略特区諮問会議では、長崎県と福島県が全国で初となる「新技術実装連携(絆)特区」に指定されました。現在は海上のみが飛行ルートとなっていますが、特区指定により、将来的には有人エリアでの目視外飛行が可能となり、さらなる利便性の向上が期待されています。離島やへき地での医薬品供給体制を、今後も引き続き支援してまいります。



編集後記

ジェンダーギャップ指数とは、各国の男女格差を「経済」「教育」「健康」「政治」の4分野で評価し、国ごとのジェンダー平等の達成度を指数にしたものです。日本の2024年ジェンダーギャップ指数は、世界118位でした。特に政治・経済分野に課題があり、同一労働での賃金格差や女性管理職比率が低水準にあります。ジェンダーギャップ指数が世界1位のアイスランドと、日本の圧倒的な違いは、政治参画と経済参画にあります。アイスランドがこのように女性の参画が進む転換点になったのは、1975年のデモ活動だそうです。男女間の不平等を訴えるため、全国の約9割の女性がストライキを行い、その5年後には初の女性大統領が誕生しました。このように女性が声を上げて動いた歴史があり、今の社会が実現したそうです。

日本では、管理職や決定の場に女性が少ないことが課題としてあげられています。女性目線が活かされる社会になるためには、組織の決定の場に、かならず女性が入ってもらいたい意見を聞くことが大切なのではないかと思えます。女性が活躍できる組織にするために、ぜひ、女性を「信頼」「期待」し、「情熱」を伝えてください。本田あきこ参議院議員には、女性が働きやすい制度づくりにも力を発揮していただきたいと思います。

(M・H)

広報委員

- 原口 亨、丹羽 松弘
- 浜田 嘉則、橋本 昌子
- 和泉啓司郎、小屋敷淳子
- 山原 大輝、渡邊美知子